┌┬┬┬ ━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━ 2023年8月
┌┬┬┬ きゅうしょくカンガルー！通信 NO.115　奈良の学校給食を考える会
━━

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
長い梅雨が明け、本格的な夏が到来。みなさまいかがお過ごしでしょうか。
私たちは、おいしい給食＆ほんとうの食育をめざして活動していきます。

このメルマガは､私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

━━
■■　もくじ　■■
━━

１ネオニコフリー学習会参加報告

━━
■１■　ネオニコフリー学習会参加報告
━━

5月29日、ネオニコフリー学習会に参加しました。講師は、神戸大学大学院教授の星信彦さんです。

ネオニコ（ネオニコチノイド系農薬）は、殺虫剤のひとつです。当初「虫には毒性が強いけれどヒトには安全」と売り出されましたが、人に対する影響についても研究が進み、神経発達や健康への影響が懸念されています。ネオニコは胎盤を通して瞬時に胎児へ移行すること、濃縮されて母乳に移行することが分かっています。

農薬の場合、医薬品と違って臨床試験が行われず、ヒトに対する安全性が確認されていません。ではどのように安全基準を決めているのでしょうか。
安全基準に関するものに、「無毒性量（NOAEL)」と「一日摂取許容量（ADI)」というものがあります。「無毒性量（NOAEL)」とは、動物試験で有害な影響が認められない最大投与量のこと。「一日摂取許容量（ADI)」は、ヒトが生涯にわたり毎日摂取し続けても有害作用を示さないとされている量のことで、無毒性量の100分の１とされています。でもこの100分の１という割合の決め方に大きな問題があるのです。

動物とヒトという種の差を考慮して10分の１とし、さらに個人差を考慮して10分の１とする、そのかけ算で100分の１にすれば大丈夫だろうという計算なので

すが、星さんによると感受性には大きな差があり、例えばTCDDというダイオキシンの一種に対する感受性では、モルモットとハムスターで1万倍の差があるのだそうです。また、同じヒトといっても、成人と胎児や新生児とは感受性に大きな差があります。動物実験で確認された無毒性量の100分の1ならヒトに対して安全であるとする根拠はありません。そもそも、化学合成農薬が世に出てきてまだ70余年。人生100年と言われる時代に、どうして「生涯にわたり摂取しても安全」と言えるのでしょうか。

また、何に対して安全なのかというリスク評価項目にも問題があります。日本の依拠しているOECDガイドラインは古く限定的で、発達神経毒性や自己免疫疾患への影響は評価されません。生後に発達する脳の神経回路への影響など、子どもの発達への影響が現在の評価では分からないのです。ネオニコの動物実験では、遺伝子自体ではなくその発現に影響を与え、子や孫の世代により大きな影響を与える「エピゲノム変化」を起こす可能性が示唆されていますが、このような世代を超えた影響についてもリスク評価項目には入っていません。星さんは、「リスク評価が変わらない限り、農薬の問題というのはいたちごっこ。ネオニコがなくなっても違う農薬が出てくるだけ。だからリスク評価方法自体を変えなくてはいけない」と言います。

ネオニコは代謝が早い物質です。ネオニコのひとつであるクロチアニジンという農薬は約1日で体内から消えていきますし、1か月間オーガニックの食事を続けるとそれまでの食事で摂取したネオニコが体内からほぼゼロになるという研究結果もあります。積極的にオーガニック食材を食べて体を守りながら、ネオニコフリーや農薬リスク評価改善などに取り組んでいきましょう。

※参考「みんなで選ぼう ネオニコフリー！」動画　ぜひご覧ください。
その1　https://www.youtube.com/watch?v=_JeBKkQ3pn0
その2　https://www.youtube.com/watch?v=PIdY8rBIzeg

（この記事は、コープ自然派事業連合発行タブル誌の掲載内容を、許可を得て一部変更してお送りしています）

●来月もお楽しみに♪●

　メルマガ発信元 ： きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）
E-mail　：oishiikyusyoku@gmail.com
facebook：https://www.facebook.com/oishiikyusyoku
事務局　：生活協同組合コープ自然派奈良内（田原本町西竹田33-1）